

長崎医療センター

座談会 Vol. 25

千燈照院

外来化学療法センター

がんと長く付き合うことができるようになった今日、がんのcareとcureをつなぐ、多職種医療チームによるハブステーション、“外来化学療法センター”の現況について伺いました。

座談会参加者

外来化学療法センター長 佐伯 哲
副薬剤部長 植村 隆
がん化学療法認定看護師 村上 摩利
聞き手：院長 江崎 宏典

千燈照院とは…
長崎医療センター千人の職員が力を合せて高度医療の実現にまい進する姿勢を表す言葉。

江崎：当院の外来化学療法センター設立の経緯を教えてください。

植村：これまで入院でおこなわれてきた抗がん化学療法の一部が、治療や副作用に対する対処法の進歩により、外来通院で行えるようになった為、患者さんの生活の質の向上と早期の社会復帰への援助になるよう、平成18年6月に開設いたしました。

江崎：利用者数はどのような状況ですか。

佐伯：利用者数は右肩あがりです。平成24年には2,000人を超え、昨年度は3,321人と増加しております。もともと10床のベッド数を2床増やして、なんとか対応している状況です。

外来化学療法センター実績



江崎：外来治療の利点は何ですか。

村上：患者さんが仕事や育児・家事等、自分の役割を遂行しながら、治療ができる点ではないかと思います。

江崎：入院すると子どもの面倒をみるのも難しくなりますしね。外来治療において、自宅での服薬指導や副作用対策は大変なのではないですか

佐伯：本来は連絡が必要な緊急時や副作用の対処等、患者さん自身が相談するタイミングがわからないと、医療者の介入が必要な場合でも見過ごされる可能性があります。不明なことがある場合はすぐ連絡くださいと指導しています。

江崎：薬剤師の立場では、どのような指導をされていますか。

植村：副作用の発現時期や、副作用対策のお薬をどのようなタイミングで飲めば良いのか、来院が必要な場合を薬剤師の立場で指導しています。

江崎：看護師の立場では、どのような指導をされていますか。

村上：病棟で初回の化学療法を終えた患者さんには、初回の指導内容(看護サマリー)をもとに、起きた副作用のケアの対処方法を指導しています。

江崎：年齢層も違うから個々に応じた指導になりますね。

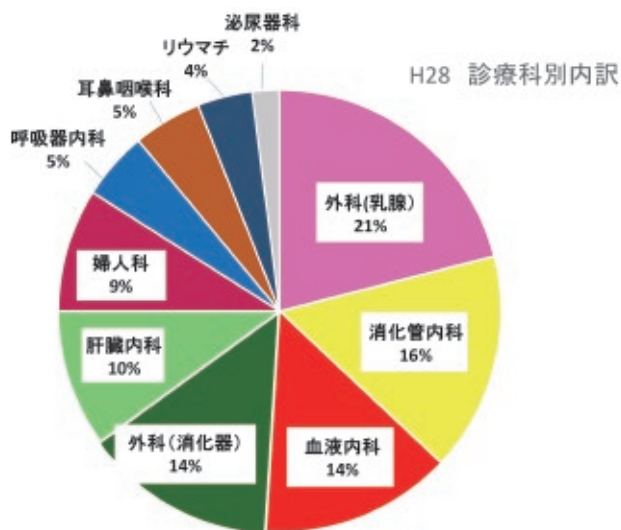
村上：患者さんの症状も多岐にわたり、患者さんによっては一度には習得できないので、復習していただきながら指導を追加しています。

江崎：診療科では、どの科が多いですか。

佐伯：利用する科は多岐にわたります。これまで少なかった、長期寛解が得られるがん種やレジメンも増え、長期にわたって治療が出来るケースが増えております。

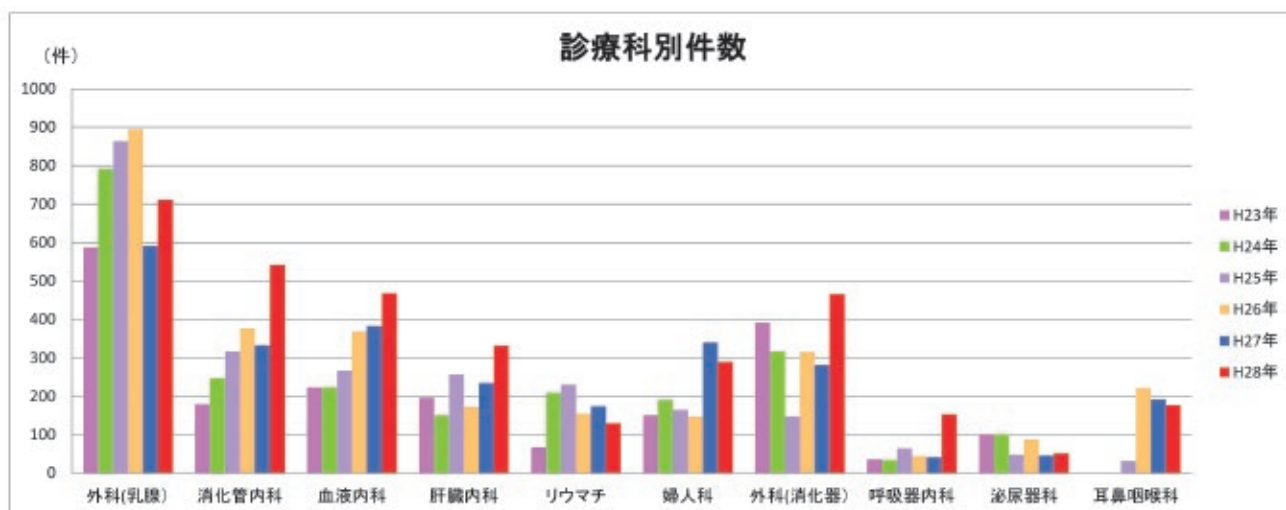


外来化学療法センター長
佐伯 哲
(さえき あきら)
平成26年より現職



江崎: 今後もっと利用者は増加しそうですね。
 佐伯: 新規治療薬や新規治療法が増えるにしたがって、さらに増加してくると思います。
 江崎: 診療科別件数のデータを見ると、消化管・血液内科が特に増えているようですね。
 佐伯: 血液内科では、入院治療が必須で、投与時間が長くて副作用の激しい治療しかなかったのですが、近年の新しい薬剤の開発により、短い投与時間で治療できるようになったこと、消化管内科は特に大腸がんの治療法が格段に進歩したことが増加の要因です。
 江崎: 全国的に同じような傾向ですか。
 佐伯: そうですね。都会では働きながら治療する人が増えているようです。仕事をした後、夜間治療対応をする診療機関も増えているようです。

江崎: 看護のほうで力をいれていることは何ですか。
 村上: 外見上の変化に対する対策に力をいれています。皮膚障害、脱毛対策等の勉強をして、患者さんに伝えるなどしています。
 江崎: 仕事をするときなど外見上の問題対策は重要ですね。どのような訴えが多いですか。
 村上: 顔への皮疹、爪の周囲の腫れやしびれにより細かい作業ができない等の訴えがあります。薬剤師の先生と相談しながら、どのような薬剤で対処したらよいかを検討したりと個々に応じて対応しています。
 江崎: 今後の抱負をお聞かせください。
 佐伯: 外来で化学療法を受けている患者さんの副作用・生活状況がひとまとめでチェックができるハブステーションでありたいと思っています。DRだけでなく、看護師、薬剤師、MSW等多職種がチームとして、患者さんが確実かつ安全に化学療法を行える環境を整えていきたいです。
 江崎: 本日はありがとうございました。



外来化学療法センター